

新しい議会スタート 日本共産党3人の議員団

くらし・福祉・環境守るため
全力でがんばります



9月9日実施の市議会
員選挙で当選した市会議
員は、10月1日に初登庁
し、4年間の任期が始ま
りました。

日本共産党市会議員団
(1期目のさらがいふ
み・3期目のさかの光
雄・4期目の中上さち子)
は、選挙で掲げた公約実
現のために全力で取り組
んでいきます。

高すぎる国民健康保険
料・介護保険料、その上
に来年4月に初登庁し、
お年寄りいじめの「後期
高齢者医療制度」の実施
また、消費税引き上げ計
画など、ますます暮らし
が大変です。暮らし・福
祉・環境を守るために、
全力でがんばってまいり
ます。

市民のみなさん方のご意
見・ご要望をぜひ
お寄せくだ
さい。また、今
後ともご支
援・ご協力よ
しくお願い
いたします。



かたの
民報
議会版

2007年10月6日
NO.1403
【発行】
日本共産党
市会議員団
ご相談は市役所
議員団控室へ
私部1-1-1
☎892-0121
(内線301)

日本共産党 10月議会に6本の意見書を提出

10月議会に提出した6本の意見書のうち4本をご紹介します。
残りの2本は次号の「かたの民報」に掲載いたします。



医療制度改革に関する意見書(案)

昨年成立した「医療制度改革関連法」では、平成20年4月から、後期高齢者医療制度を創設するとともに、70歳から74歳までの高齢者の医療費負担を1割から2割とするなど、高齢者に新たな負担を求めることとなっている。この間、老年者控除の廃止や介護保険料の増額など税や社会保険料でも負担が増していることから、本市でも多くの高齢者が将来の生活に対して強い不安を感じているとの声が聞こえている。

このような中、来年4月から実施が予定されている70歳から74歳までの高齢者の医療費負担の1割から2割への引き上げについて、政府・与党は凍結する方針を固めたとの報道がなされたところである。

よって国におかれては、高齢者の負担を軽減する観点から、70歳から74歳の高齢者の医療費負担の増加について、その凍結を早急に検討されるとともに、厳しい財政状況下にある地方自治体に財政負担を転嫁することのないよう十分配慮されたい。さらに医療制度改革を推し進めるにあたっては、誰もが安心して受診することができる医療制度とすることを強く要望する。

医療制度改革に関する意見書(案)
児童扶養手当減額の見直しを求める意見書(案)
子どもの医療助成制度に対する自治体への「制裁」をやめ、国の制度として、子どもの医療費の無料化の実施を求める意見書(案)
後期高齢者医療制度の見直しを求める意見書(案)
障害者自立支援法の抜本的な見直しを求める意見書(案)
テロ特措法廃止、インド洋からの自衛隊撤退を求める意見書(案)



中上 さち子
倉治 6-17-13
☎ 893-6785



さかの 光 雄
私部 1-38-23
☎ 893-1083



さらがい ふみ
星田 7-44-21
☎ 894-2835